下諏訪中学校・南小学校区

なぎがまCSだより

第18号
2023年3月10日発行
発行責任者　本山 公之
編　　集 広 報 部
なぎがまCS事務局
下諏訪中学校　☎27-3000
下諏訪南小学校　☎27-5000

「地域・学校・家庭が連携し子どもたちへより充実した支援を」

なぎがまCS委員長　本山 公之

新型コロナもGW以降、感染症法の分類が2類相当から5類に引き下げられる事となり、少しずつコロナ前の学校生活が戻って来てくれる事を楽しみにしている今日この頃です。コロナ禍の3年間、南小、下中の子どもたちも先生方も蔓延防止のために伸び伸びとした学校生活が送れていないことは残念であり、悔しく感じております。本年度もなぎがまCSの活動も縮小せざるをえませんでしたが、感染対策をしながら、「できる事はやっていきましょう」という事で学校と相談し各団体の皆様に様々なご支援をしていただきました。5類になるとはいえ先生方、保護者の皆様の不安は尽きないかと思います。感染対策も個々の判断となっていきますが、「うつらない・うつさない」の基本を守りつつ、学校、地域、保護者と連携し可能な限り子ども達を支援していく事を第一に考え学校と関わっていきたいと思います。そして支援がより充実するよう地域の皆様のより一層の参加協力を改めてお願いしたいと思います。一年間ありがとうございました。

◇地域連携部レポ

３年ぶりの開催！諏訪湖岸清掃

コロナ禍で集団イベントが開催されなった中、５月３１日諏訪湖ロータリークラブからの呼びかけで３年ぶりとなる諏訪湖湖岸清掃活動が行われました。

下諏訪中学校からは２０人程が参加し、社中の生徒そしてつるみね学園（岡谷市）の子どもたちも交流で参加いただき、赤彦記念館前（下諏訪町）を出発し北浜源湯の憩い広場（諏訪市）までの３㎞の波打ち際や遊歩道を歩いてみんなで交流を深めながら清掃活動ができました。

１０月１６日にも開催され、湖岸がきれいになる喜びとともに、湖岸清掃が盛大に開催できたことを参加者全員で喜ぶ様子が印象的でした。

「家庭と地域と学校と」

下諏訪中学校校長
中澤　隆一 先生

令和４年４月１日、令和４年度がスタートしました。

今年度から下諏訪中学校校長として着任し、下諏訪中学校の玄関前に立ち、まず目に入ったのが、「下諏訪中学校」の校名と共に「なぎがまコミュニティー」の看板でした。

この看板について過去の資料を調べたところ、平成29年3月の「なぎがまCS便り」に、当時の下諏訪中学校美術科の小林美典先生が、看板の木が堅かったため、何度も彫刻刀を研ぎながら制作して下さったと記されていました。

この看板には「下諏訪南小学校・下諏訪中学校の子どもたちを支えて下さる多くの方々の思い」が込められていることを感じました。

子どもたちの成長には、家庭・地域・学校の三者が、子どもたちが心おきなく挑戦できる環境を整えてあげることが必要です。

その環境とは、家庭は温かで穏やかな日常があり、豊かなコミュニケーションが交わせる場であること。地域は、明るい挨拶と笑顔で見守り、お互いに打ち解けあう場であること。

そんな環境の中でこそ子どもたちは、失敗してもくじけることなく、次に向かうことが出来るだろうし、達成すればかけがえのない自己肯定感を得ることができます。

今年度もコロナ禍の中、多くのなぎがまコミュニティーの活動が中止となり、思うような実践ができませんでした。しかし「なぎがまコミュニティー」の看板に込められた多くの方々の熱い思いを大切にして、来年度は「前へ前へ」と進んでいきたいと思います。

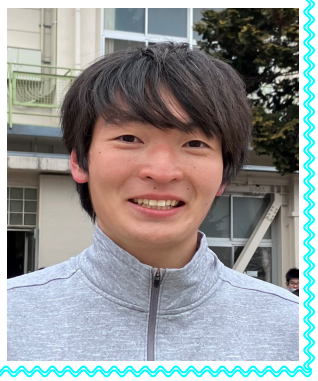
今後も、下諏訪中学校のこどもたちのために、様々なご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

◇ 学校支援部ルポ　夢いきいき講演会（下中）＆クラブ紹介（南小）

【夢いきいき講演会】

先輩に学ぶ　ＳＧホールディングス　中谷 雄飛さん（下諏訪中学校ＯＢ）

下諏訪中学校～佐久長聖高校～早稲田大学～ＳＧホールディングス（陸上競技部所属）
全国高校駅伝１区区間賞（３年）全日本大学駅伝３区区間賞（３年）
箱根駅伝４年連続出場。
目標は「世界陸上・オリンピックで勝負できる選手になること」
好きな言葉は日進月歩。好きな食べ物は魚。



中谷雄飛さんのオンライン講演会を２月３日に母校である下諏訪中学校で開催しました。

陸上競技を始めたのは下諏訪町民マラソンでメダルを取りたいと思ったのがきっかけ。町民マラソンで友達がメダルを取っていたことがうらやましくて、自分もメダルを取りたいと思い、専門的に陸上競技を始めた。小４の町民マラソンで初めて金メダルを獲得。頑張った分だけいい記録が出ることが嬉しくて常に高い目標を持って挑戦していたということです。

下諏訪中学校では陸上部に所属。さらにオール諏訪チームにも所属し、いろんな種目に挑戦することで自分の持ち味や適性を知り、全国大会では１５００ｍで８位入賞。また中学時代は校友会の文化委員長を務めながら陸上の練習と勉強。睡眠時間が４時間の日もあったが、当時はそれほど辛くはなかったそうです。しかし全日本都道府県駅伝の県代表メンバー（中学生）に選ばれなかったことが悔しく「文句なしに強くなりたい」とより高いレベルの環境を選び、佐久長聖高校の門を叩く。全国高校駅伝で１区区間賞を獲得した映像を交えて「目標達成のためには自分を律することを学んだ」と話されました。その後名門早稲田大学に進学。箱根駅伝をはじめ記憶に残る活躍をされ、注目を集める選手となったが、周囲からのプレッシャーや苦しい練習を耐え抜いて成長した現在の自分があるというお話をしてくださいました。話の結びには『成功するビジョンを描くと毎日の行動が変わる。目標をもって一日一日を大事に過ごしてほしい』というメッセージをいただきました。

講演を聞き終えた生徒からは、「壁にぶつかった時は日常生活の立て直しが大切だと分かりました。将来のことを考えて一日一日を過ごしたい」「失敗したときは、マイナスに考えるのではなく、悔しさをパワーに変えて、成功した自分の姿を思い浮かべるようにしてみたい」という感想が聞かれました。

中谷さん、子どもたちのために貴重なお話をしていただきありがとうございました。世界陸上、パリオリンピック出場を目指して頑張ってください。みんなで応援しています。

各クラスで中谷さんのお話を真剣に聞く生徒たち

地域の方から学び自分を磨く　南小学校　クラブ活動

日本文化クラブ　講師　徳武 友晴さん

視聴覚室に姿勢を正して入る20人の子どもたちの立ち居振る舞いがきれいに見えました。足がしびれて「痛ててぇ」ということもありましたが、みんな茶道実習の会をとても楽しみにしているようでした。子どもたちは、講師の徳武先生が用意してくださった本格的なお茶と京都の甘いお菓子をいただきました。

「お茶はもてなしの文化で人と人とを良い関係に導き、それを保つ手段です」と徳武先生からお話がありました。

茶道を学ぶ子どもたちの様子

将棋クラブ　講師　小口 雅彦さん

将棋クラブ22人の子どもたちのほとんどが将棋好きで「おじいちゃんと将棋をしている」「スマホやゲームで対局している！」と将棋がごく身近にある様子でした。当日は、小口先生が全員対局できるようにと幾つも将棋盤と駒を用意してくださったため、４つのグループに分けて全員対局を行うことができ、子どもたちは時間いっぱい将棋を楽しむことができました。

投了がわかるとグループ内はとても盛り上がっていました。また小口先生が考案された詰将棋にも挑戦していました。

子どもたちは「詰将棋が楽しかった」「先生の詰将棋をやってみて、戦術が広がった」など満足感いっぱいの笑顔で話してくれました。

徳武先生、小口先生はじめクラブ活動で子どもたちにご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。

詰将棋の指導を受けている子どもたち

編集後記

今年度も一年間ありがとうございました。原稿をお寄せいただいた皆様方にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

コロナもインフルと同じ分類に引き下げられる来年度は、コロナ前のような子どもたちの元気あふれる活動が展開され、広報部としても取材ができることを楽しみにしています。

なぎがまCS広報部は、次号から新体制となりますが、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。